

健康的に 暮らして頂くために

グループホームいせ木
事例検討

まずははじめに

ガゼル株式会社の皆さん
この度は、貴重なお時間を頂戴しまして
誠にありがとうございます。
ガゼルグループの一員として
皆様に株式会社クレイドルの事を
少しでも知って頂けたら幸いです。

【目次】

1. 私たちが変わらなければならぬ事
2. 「もう仕方がないよね」と諦めない
3. 背景
4. 利用者情報
5. 解決すべき課題
6. 具体的な状況・状態
7. 取り組んだこと
8. 変化
9. 結果
10. 事例を通してわかったこと

1. 私たちが変わらなければならない事

もし、私たちが「できる限りのこと」を行い、入院を回避する事ができていたのなら、その方の生活は…少なくとも、見ず知らずの病院で1人治療を受ける、そんな時間を過ごすことはなかつたと思います。

2. もう仕方がないよねと諦めない

すぐに病院ではなく1人の利用者様へのケアを通して
私たちがやるべき「できる限りの事」や、介護士であっても
健康を支える事ができること知ることができました。
そんな事例をご紹介いたします。

3. 背景

これまでのオペレーションは「状態が悪くなったら医師に連絡して救急搬送する」ことが常態化していたと思います。医療連携も課題ですが、それよりも…

GHいせ木における入院要因

第一位	第二位	第三位
食思低下による全身状態悪化	誤嚥性肺炎 尿路感染症	骨折・ケガ

4. 利用者情報K・K様（91歳）

介護度：要介護2

疾 患：慢性心不全、過活動膀胱
アルツハイマー型認知症

- ・シロスタゾールOD錠100mg「トーワ」1錠
- ・ドネペジル塩酸塩OD錠5mg「トーワ」2錠
- ・セララ錠25mg1錠(利尿作用がある)
- ・ベタニス錠50mg1錠
- ・アゾセミド錠30mg「DSEP」2錠



5. 解決すべき課題

- ・活動性の低下からADLや認知機能の低下が引き起こされる可能性がある。
- ・肺炎や尿路感染症を引き起こす可能性がある。
- ・毎日の生活が苦しいものになってしまう

6. 具体的な状況・状態

- ・すぐにトイレに行きたくなるからと、水分を摂りたがらない
- ・一日500ml程度の水分摂取量
- ・血圧が低く食事とおやつ以外は横になっている事が多い
- ・起きても机に伏せている
- ・身体の痒みがあり常に搔きむしっている
- ・頭痛の訴えがある。



7. 取り組んだこと

- ・医師に処方薬の見直しを打診し、利尿剤の減薬を行った。
- ・水分補給のタイミングをトイレ後や1回/1Hのペースでこまめに促した。
- ・1回の摂取量を30mlと少量ずつにして抵抗感をなくした。
- ・痒み止めと称して、水分摂取への抵抗感を減らした。
- ・家族からの情報で、毎朝の習慣であった牛乳を提供すること取り入れた

8. K・K様の変化

- ・ 抵抗感があった水分摂取も、抵抗なく飲まれるようになった。
- ・ 1回の量よりも回数を優先し、毎朝の習慣であった牛乳をきっかけに1日の水分量が800～1,000mlとなった。
- ・ 頭痛の訴えや身体を搔きむしすることがなくなった。
- ・ 机に伏せることがなくなり、他者と関わるようになった。
- ・ 何より、本人の表情が柔らかくなり、笑顔が増えた。



8. スタッフも変化

スタッフの意識が変わった。

スタッフ間の声掛けが「今、飲んでくださいました！」
「昨日よりも飲めています！」とK様の変化がスタッフの
歓喜に変わった。

今日はどのくらい飲めているか記録を確認しながら話
し合う姿も見られるようになった。

9. その結果





10. 今回のことわかったこと

- ・介護士であっても薬の内容を理解する必要があった。
- ・点滴をしてもらえば簡単だったかもしれない。
でも動けない時間を作ってしまったり、針を刺すことで痛い思いをさせてしまうこと。
- ・チームで医療につなぐまでの観察や取り組みが大切だということ。
- ・単に水分摂取量を増やすことだけでなく、その方の生活の質が大きく変わったこと。
- ・身体がしんどくて飲めなかつたこともあるが、飲みたくない気持ちがあったこと。

終わりに

私たちは、

「介護で人を幸せに、自分たち自身も豊かな心になる」を
理念に掲げております。

仮に病気があったとしても最期まで健康的に暮らして
いただきたいと思います。そして「最期はここで…」

そのためにも…



91歳おめでとうございます！